

(健Ⅱ98F)

平成30年8月15日

都道府県医師会  
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

釜 范 敏

風しんの届出数の増加に伴う注意喚起について

本年7月以降、関東地方で風しん届出数の大幅な増加が報告されていることを受け、今般、厚生労働省より本会に対して別添の周知方依頼がありました。

本件は、お盆期間中の多くの人の往来により、今後、広範な地域において風しん患者が発生し、医療機関を受診する可能性があることから、医療機関に対して、発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、風しんを意識した診療を行うこと、また、感染拡大防止のため、明らかに風しんの罹患歴のある者、予防接種歴のある者、抗体陽性者を除いた者に対して任意の予防接種を検討することを依頼するものであります。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会管下郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。



平成 30 年 8 月 14 日

公益社団法人日本医師会  
感染症危機管理対策室長 釜菴 敏 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

風しんの届出数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）

現在、例年と比較し、関東地方で風しんの届出数が大幅に増加しております。この時期は、多くの人の往来が見込まれることから、今後、全国的に感染が拡大する可能性があります。具体的には、第 30 週から第 31 週まで（7 月 23 日から 8 月 5 日まで）に 38 例の風しんの届け出があり、多くは 30 代から 50 代の男性が占めていました。30 代から 50 代の男性においては、風しんの抗体価が低い方が 2 割程度存在していることが分かっています。

今後、広範な地域において風しん患者が発生し、医療機関を受診する可能性がありますので、貴会におかれましても、貴会会員に対し、下記について広く周知していただきますようお願いいたします。

記

- 1 発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、風しんにかかっている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、風しんを意識した診療を行うよう周知すること。
- 2 特に 30 代から 50 代の男性のうち、明らかに風しんにかかったことがある、風しんの予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認ができていた者を除いた者に対して、任意で風しんの予防接種を受けることについて、検討いただくよう、周知を図ること。
- 3 妊婦への感染を防止するため、特に
  - ① 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
  - ② 10 代後半から 40 代の女性（特に妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い者）のうち、明らかに風しんにかかったことがある、風しんの予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認ができていた者を除いた者に対して、任意で風しんの予防接種を受けることについて、検討いただくよう、周知を図ること。

参考 1：感染症発生動向調査（IDWR）（平成 30 年 8 月 8 日時点）（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/2018pdf/rube18-31.pdf>

参考 2：風しんとは（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku\\_kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku_kansenshou/rubella/)